



1  
JANUARY  
2017  
No.118

人と森をつなぐ情報誌「林野」

① 特集1 林業の成長産業化に向けて  
② 特集2 ウッドデザイン賞 2016





ひろこ、  
さわこの

# とっておき レシピ

今月の食材

しいたけ

## 今月の料理

読者の皆様、あけましておめでとうございます。本年も皆様にとって素敵な1年になりますようにお祈り申し上げます。さて、気が早いのですが、まもなく暦の上では立春がやってきます。関西では古くから節分に恵方巻きを食べる風習があり、現在は全国的に広がりました。その年の恵方に向かって無言で食べるといふ風習です。我が家でも手作りの恵方巻きを作って楽しんでいます。どんなのり巻きでも良いのですが、今回は韓国風のり巻きで、ご飯を塩とごま油で味付けしました。戻した乾しいたけと牛肉と一緒に炒めて具の一つにします。具は、お好みで色々試してみてください。(さわこ)

## 韓国風のり巻き

### 材料 (4~5人分)

米	2カップ
塩	小さじ1
ごま油	大さじ1
にんじん	1/2本
ほうれん草	1/2把
たくわん・キムチ・卵焼き・カニ棒・チーズ等	
牛切り落とし	150g
焼肉のたれ	大さじ2
乾しいたけ	4~5枚
エゴマの葉(又は青シソ)	10枚
のり	5枚
【ワサビ酢】	
わさび	適宜
酢	大さじ2
砂糖	大さじ1
塩	小さじ1/2弱

### つくり方

- 1 米は普通に炊き、塩とごま油をまぜる。
- 2 牛肉は細切りにして焼肉のたれをもみこみ、戻した乾しいたけの千切りをまぜ、炒め焼きしてとります。
- 3 にんじんは千切りにしてごま油大さじ1/2で炒め、塩コショウで味付けする。
- 4 茹でたほうれん草は2cmに切り、水気を固く絞ってしょうゆとごま油で和える。
- 5 その他の具材は、好みで用意し、それぞれ7~8mmの棒状に切る。
- 6 のりを縦長に置き、ごはんを上下に1.5cm程残してたいらに広げ、好みの具材を並べてのり巻きにする。  
★韓国ではいろいろな味を奇数組み合わせで芯にする。  
★ご飯は普通の酢飯にしても良い。  
★お好みでワサビ酢をつけても良い。

### プロフィール



**堀江ひろ子** (料理研究家 栄養士)  
日本女子大学食物学科卒 母堀江泰子、娘ほりえさわこ、母娘3代で料理研究家。NHKきょうの料理や、あさイチなどに出演し新聞雑誌などにも執筆。著書多数。家庭料理の大切さを啓蒙している。



**ほりえさわこ** (料理研究家 栄養士)  
女子栄養大学卒 堀江ひろ子の長女 11歳と7歳の母。NHKきょうの料理などのテレビに出演、著書多数。イタリア、韓国に家庭料理の勉強のために留学。代々伝えられている堀江家の家庭料理を踏襲し、さらに幅を広げている料理を開発している。

2017年 1月号 NO.118

## Contents

- 02 料理 ひろこ、さわこのとっておきレシピ 韓国風のり巻
- 03 平成29年 年頭にあって 林野庁長官 今井 敏
- 04 特集1 林業の成長産業化に向けて
- 08 Topics 林野庁 平成29年度予算概算決定の概要  
平成29年度林野庁税制改正事項
- 12 現場レポート みどりの女神が行く!
- 14 特集2 ウッドデザイン賞2016
- 18 森林な人々 YAMAMORI PROJECT 代表 井上 貴詞さん、須藤 修さん

# 平成29年 年頭に当たって

林野庁長官

今井 敏いまい さとし



情報誌「林野」をご愛読いただき誠にありがとうございます。  
います。

1月号の発行にあたり、謹んで御挨拶を申し上げます。  
昨年は、4月の熊本地震災害、一連の台風による大雨  
災害など、多くの自然被害が発生しました。被災された  
皆様には、心よりお見舞い申し上げます。林野庁として  
も一日も早い復旧、復興に全力で取り組むとともに、山  
地災害の予防・軽減対策を着実に進め、国民の皆様の安  
全・安心な暮らしの確保に努めてまいります。  
我が国の森林は、戦後造成された人工林の過半が本格  
的な利用期を迎えています。林野庁では、この豊富な森  
林資源を活かし、木材需要の創出・拡大と国産材の安定  
供給体制の整備を車の両輪にして、林業の成長産業化の  
実現に向けた種々の施策を進めています。林業・木材産  
業によって地域に雇用を生み、経済を活性化して、地域  
の創生を図ろうという大きな目標です。そして、川上か  
ら川下までの流れをもう一度川上につなげる、「伐採し、

利用して、その後には再造林する」という循環を将来に向  
けてきちんと構築していくことも重要となります。

木材需要の創出・拡大については、CLT（直交集成板）  
や耐火部材などの開発が進み、中高層建築や商業施設な  
ど、これまであまり木材が使われてこなかった建築物へ  
の木材利用が見られるようになってきました。

また、公共建築物では、農林水産省においても、本年  
6月に別館南別棟に開所予定の保育所の木造新築工事が  
施工中のほか、民間の病院や私鉄の駅などにも木造・木  
質化の拡がりが見られます。

そのほか、木質バイオマス利用や木材製品の輸出拡大、  
セルロースナノファイバー等の先端技術の開発・実用化  
なども含めて、こうした動きに対して、引き続き積極的  
に支援していくこととしています。

国産材の安定供給に向けては、施業の集約化、路網の  
整備、高性能林業機械の導入、人材の育成等を一体的に  
進め、林業の生産性を高めていくことが重要です。昨年  
の森林法等の改正も、集約化を円滑に進めるための法的  
枠組みの整備など供給体制の強化を主眼の一つとしたも  
のでした。

林業の現場においても、課題ごとにバラバラではなく、  
ICTも活用して関係者が相互に連携しようという具体  
的な取組が見られるようになってきました。さらに、こ  
うした取組を支える実践的な技術を身につけた人材の育  
成という観点では、林業大学の開校が相次ぐなど、頼  
もしい動きが出てきました。現場での連携が点から面へ  
と拡がるように、制度や予算でしっかりサポートしてい  
く考えです。

平成27年の木材自給率が33%まで上昇するなど国産材  
の利用拡大の動きが見られますが、それぞれの地域にお  
ける需要面、供給面での取組は決して一通りのものでは

なく、また、CLTやバイオマスが必須というものでも  
ありません。幾通りもある地域林業活性化への道筋を目  
に見える形でお示しできるよう、29年度予算に「林業成  
長産業化地域創出モデル事業」を新規事業として措置す  
ることとしています。それぞれ異なる条件のもとで川上  
と川下が連携し地域の創意工夫をこらした先駆的な取組  
がモデルとなって、地域ごとの実情にあった取組が各地  
で進められるようになることを期待しています。

一方、森林吸収源対策については、間伐や主伐後の再  
造林をはじめとする森林整備等を積極的に進めます。ま  
た、森林環境税（仮称）については、昨年末の平成29年  
度与党税制改正大綱において、「具体的な仕組み等につ  
いて総合的に検討し、平成30年度税制改正において結論  
を得る」と明記されました。長年の懸案である森林環境  
税の創設に向けて、地方公共団体の意見も踏まえながら、  
今後具体的な仕組みの検討を精力的に進めます。

また、一般会計への移行から5年目を迎える国有林野  
事業は、公益重視の管理経営や林業の成長産業化に向け  
た地域での取組への一層の貢献に努め、民有林や地元の  
地方公共団体との連携などを引き続き進めます。

今年度は、林業成長産業化の実現に向けた具体的な施策  
を実行に移していく年となります。情報誌「林野」では、  
これら林野庁の諸施策や、林業の成長産業化に向けて各  
地で芽生えつつある取組、その現場で奮闘する人々、森  
林の働きや林業・木材産業の果たす役割を応援して下さ  
る声などを、より多くの方にお届けし、ご理解いただけ  
るよう、しっかり取り組んでまいりますので、どうぞよ  
ろしく願います。

結びに、全国各地の森林・林業・木材産業の発展と、  
読者の皆様のますますの御健勝と御発展を祈念申し上げ  
まして、年頭の御挨拶とさせていただきます。

# 林業の成長産業化に向けて

林業の成長産業化の実現に向け、国産材の安定供給に向けた施業集約化や生産管理、森林資源の循環利用や木材需要の拡大・創出といった課題に対する様々な取組が各地で始まっています。

## 3D化した空中写真を境界確認に活用

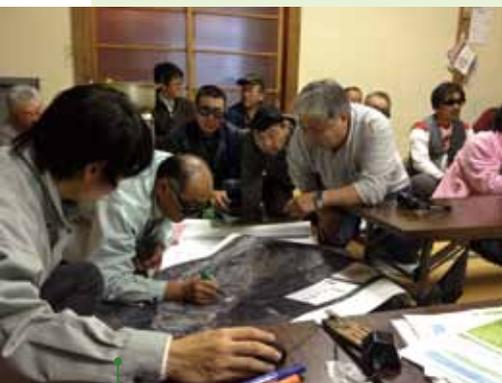
～秋田県・雄勝広域森林組合～

秋田県湯沢市にある雄勝広域森林組合では、森林所有者の高齢化や不在村化が進む中で、境界確認を効率的に行う有効な手法の一つとして、3D化した空中写真による森林境界の確認に取り組んでいます。これまでは、公図や森林簿の情報を利用して、個別に森林所有者等と現地での境界確認を行っていましたが、登記情報や森林の現況を基に森林所有者等を特定した結果や、地形・林相界等の情報が管理されているGISの地図デー

タを空中写真に重ねた3D画像をプロジェクターで投影し、森林所有者が合同で立体視することで境界の明確化を行いました。判明した境界の情報は、最新版の空中写真から作成されたオルソ画像(注)に書き込み客観的なデータとして保存され、第3者による現地到達や境界の現地再現が可能となりました。また、境界の確認を行うことで、現地での森林所有者による立会、測量や施業の実施を希望する者が現れるなど、森林管理に対する意識の向上にも繋がりました。



所有者説明会の様子と3D化した空中写真(右下)



所有者間で話し合い境界を明確化

注：空中写真に生ずる歪みを修正し、真上から見たように傾きの無い画像に変換して、位置情報を付与したものです。

## ICTで施業集約化や生産管理を効率化

～長野県・北信州森林組合～

長野県の北信州森林組合では、施業の集約化から木材の販売に至る一連の業務において、ICTを積極的に導入しています。これまでに、境界明確化事業で得られた座標データ、航空レーザ計測によって作成した森林資源量と微細な地形も判読できる赤色立体図等を、森林GISシステムに統合して集約化施業の計画作成に活用しているほか、現場作業の日報整理や事業の進捗、出入金の管理等を一元的に行う森林整備事業管理システムを独自に開発し導入しています。また、スマートフォンにインストールした検収アプリや中間土場に設

置したトラックスケールを使用し、出材量をリアルタイムで把握する仕組みも整えています。今後は、例えば、森林GISシステムから年間工程表を自動的に出力したり、スマホ用の日報アプリを開発して森林整備事業管理システムに業務日報を直接読み込んだりすることを可能にし、事務所しながら施業計画の立案から素材の出荷に至る事業の全てを一括して管理できるようにすることを目指しています。

北信州森林組合では、どのように日々の仕事を簡素化し効率を良くするかという観点から、「何をすべきか」を明確に理解できる人材の育成を進めながら、新たな技術の導入に取り組むことが重要と考えています。



森林整備事業管理システムへの日報入力



スマホアプリでの検収と中間土場のトラックスケールで生産量を管理

## 新規就業者の確保と定着率向上に向けて

### 徳島県・にし阿波地域での取組

徳島県では、10年後に県産材生産量を平成17年の約4倍にする「新次元林業プロジェクト」を平成27年度から展開しています。この実現には新規林業就業者の確保が最重要課題となっており、26年度当時、県下で唯一の林業専門課程があった「三好高校」を対象に、地元林業事業体と連携した取組を行っています。

三好高校、地元林業事業体、県林業普及指導員を構成員とした「林業担い手確保推進協議会」を定期的に開催し、次の取組を実施しました。

- ① 高校での「職業としての林業」を意識付けるカリキュラムの実践（出前講座、林業実習、就業体験等）
- ② 高校の進路担当教諭との求人情報交換
- ③ 事業体での計画的な求人体制の確保



高校生を対象とした林業実習



林業PR映画「林こずえの業」パンフレット

（採用計画作成の支援や面接手法等の指導）

- ④ 採用後の定着に向けた受け入れ体制の整備（新人教育のポイントを情報交換等）
- ⑤ 就業者確保の推進（ハローワークでの求人、林業PR映画「林こずえの業」の制作と各種イベントでの上映）

この結果、過去10年間はゼロだった三好高校からの林業への就職が、27年度4名、28年度4名（内定）となりました。今後も協議会では、カリキュラムの検証・改善、女性の活力を意識した業務の創出、三好高校への進学を念頭においた中学生への周知を展開し、更なる人材の確保と定着率の向上に取り組むこととしています。

## 国有林野での事業体育成や獣害対策の先導的な取組

林野庁が一元的に管理し「国民の森林」として公益重視の管理経営を行っている国有林野においても、近年は、我が国の森林面積の約3割を占める資源と、全国に所在する森林管理署等の組織を活かして、林業の成長産業化に向けた先導的な試みが各地で実施されています。

林業の収益性向上の観点から、生産能力の高い林業事業体を育成しようと、中部森林管理局では、作業日報を活用し作業工程や生産コストを分析する生産性向上実現プログラムを実行しています。各森林管理署等が民有林関係者や林業事業体と一緒に、機械や人員が最も効率的に活躍できるように作業計画を立てて事業を進めています。毎日の作業結果の分析・検証を基に、作業工程上の問題点を把握し、日々、作業システムの改善に取り組んでいます。



また、シカ被害対策について、関東森林管理局静岡森林管理署では、静岡県や地元の自治体等で構成される協議会の一員として、誘引狙撃やくくりわな等の技術を導入して、国有林野内での計画的なシカの捕獲に取り組んでいます。3年間（2012年～2014年）に569頭ものシカを捕獲することによって、シカの生息密度が5分の1程度まで低下した区域もあるなどの成果が得られました。



## 再造林事業

植付が困難な森林所有者へ、立木購入の際に森林整備を提案し、森林整備協定を結び、伐採から植付、下草刈りを行い、5年後健全に育成した森林を所有者へ返還している。

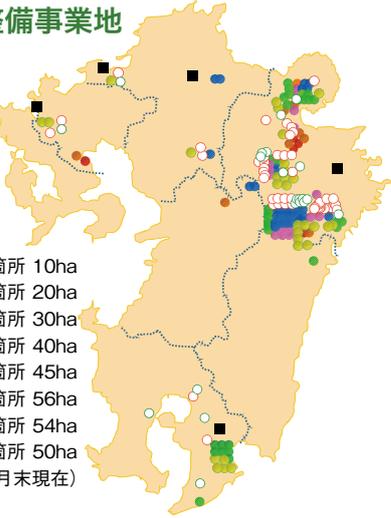


## 再造林森林整備事業地

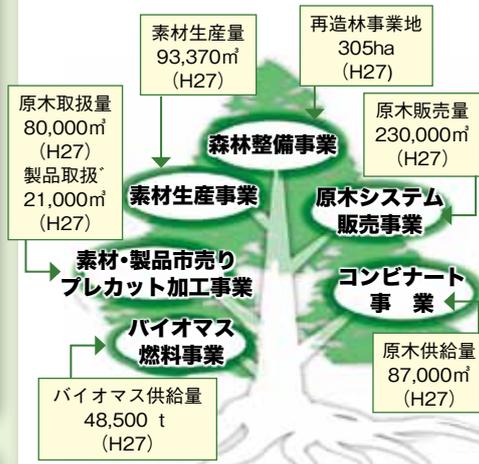
～実績～

協定箇所：223箇所  
協定面積：305ha

- ：平成20年度 5箇所 10ha
- ：平成21年度 9箇所 20ha
- ：平成22年度 20箇所 30ha
- ：平成23年度 35箇所 40ha
- ：平成24年度 46箇所 45ha
- ：平成25年度 28箇所 56ha
- ：平成26年度 49箇所 54ha
- ：平成27年度 31箇所 50ha  
(平成27年12月末現在)
- ：事業所



## 伊万里木材市場の事業内容



(株)伊万里木材市場は、原木市場での市売りに加え、隣接する工場等への協定取引による原木の安定供給や物流コスト削減の

# 立木買い付け後の再造林・下刈りを実施し 原木を持続的に確保

### 佐賀県・(株)伊万里木材市場

取組を進めてきました。

平成20年度からは、自ら立木を森林所有者から買い付けることで原木の安定確保にも取り組んでいます。買い付け時には森林所有者と協定を締結し、同社が地元の森林組合の協力を得ながら伐採跡地の再造林を行い、植栽後5年目の下刈りまで実施して所有者に返還しています。協定森林は九州各地の223箇所、約305ha（平成27年12月時点）に及んでいます。

このような持続的に原木を調達する取組を通じて、「伐って、使って、また植える」という資源の循環利用が地域で定着していくことが重要です。

# 早生樹種を活用した 森林資源の循環利用に向けて

### 広島県・コウヨウザン普及の取組

広島県では、30年程度で伐採が可能な早生樹であるコウヨウザンに着目し、その普及に向けた取組が始まっています。

コウヨウザンは、中国・台湾が原産国で、江戸時代にはすでに国内の寺社等に植えられていました。このため国内ではほとんど点在した分布となつていますが、広島県庄原市に約0.6haのまとまった造林地(50〜60年生)があり、同県が調査したところ、成長・材質等でスギを上回る良好なデータが得られました。

同県では「成長の早さ」には、さまざま可能性があるとされています。たとえば、1年生で苗木供給が可能になり苗木の需給調整が容易になること、植栽した苗の伸長成長が早く下刈り回数の縮減により造林経費を節減できること、林業経営期間の短期化(30年程度で主伐可)が図られること、そして萌芽する特徴を活かして主伐後の再造林の経費節減が可能

なこと、などです。

さらに、コウヨウザン造林の収支構造などを「見える化」することにより、人工林の主伐・再造林を進めるうえでの問題解決の糸口につながることも期待されます。平成28年度には広島県樹苗農業協同組合の協力を得て、1.7haの造林を計画しており、今後はこれらを増やしつつ、耕作放棄地などへの植栽の可能性も検討していくこととしています。

また、27年度には、森林総合研究所林木育種センター・鹿児島大学・製材工場・広島県林業技術センターが連携し、コウヨウザンの優良系統選定や材質性能評価などを行う研究開発事業がスタートしています。同県では、こうした研究と連携しながら、林業の成長産業化を支えるための森林資源を循環利用していく仕組み作りを進めていきたいとしています。



広島県庄原市のコウヨウザン林



切株からの萌芽



製材後のコウヨウザン簡易強度試験

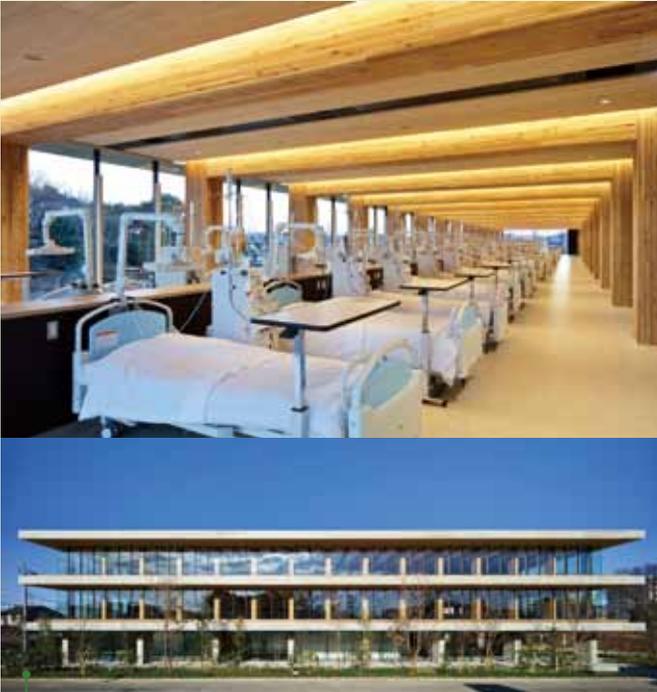
# 国産材需要の創出・拡大

## 国産材を用いた建築例

国産材の利用は、地球温暖化防止、地方創生などにも貢献するほか、木材そのものが持つ特性から、快適で健康的な空間づくりにも役立ちます。このため、新たな技術開発の成果を活かし、民間の施設等でも国産材の利用が広がっています。

「中郷会新柏クリニック（千葉県柏市）」は、木の癒し効果に着目して透析治療を受ける方々の負担感を軽減した『森林浴のできるクリニック』です。国産材の利用にこだわり、新しい防耐火技術の導入により都市部において木造・木質化された医療施設を実現しました。

「アキュラホーム住まいと暮らしサロン（埼玉県熊谷市）」は、特注の大断面集成材や特殊な金物を用いることなく、住宅用一般流通材と一般加工技術を用いた工法で大空間の木造建築を低コストで実現しています。



中郷会新柏クリニック  
(千葉県柏市、3階建て、延床面積3,132㎡、2016年1月竣工)



日能研大船校仮設の学び舎  
(神奈川県鎌倉市、2階建て、延床面積250㎡、2016年10月竣工)

CLT（直交集成板）工法により建築された準耐火構造の建築物で、事務所としての機能性や快適性を追求しつつ、木の力強さや優しさを表現し、質実剛健な空間を実現しています。

「日能研大船校仮設の学び舎（神奈川県鎌倉市）」は、「木質」が生み出す学習効果に加え、循環可能な資源を利用することで、持続可能な「学び」につなげたいとの思いから、国産スギを使用した伝統的な板倉工法により建築されました。



アキュラホーム住まいと暮らしサロン  
(埼玉県熊谷市、3階建て、延床面積431㎡、2016年6月竣工)  
© 2016 繁田諭



高知県森連会館  
(高知県南国市、2階建て、1,205㎡、2016年3月竣工)

# 林野庁 平成29年度予算概算決定の概要

去る12月22日に閣議決定された平成29年度予算政府案について、林野庁関係分の概要をご紹介します。

平成29年度林野庁の一般会計予算は、総額2,956億円で、のうち公共事業費は1,900億円、非公共事業費は1,055億円となっており、平成28年度第2次補正予算の1,022億円と併せて、林業の成長産業化の動きをより強力に後押しする内容となっています。

例えば、昨年の森林・林業基本計画の策定や森林法等の一部改正などを踏まえ、林業成長産業化地域をモデル的に支援していくほか、施業集約化のための林地台帳の整備やC-LTなどの新たな木材製品の利用促進を予算面で支援していきます。また、森林吸収源対策や自然災害対応の重要性を踏まえ、森林整備、治山事業を更に推進していきます。事業ごとのポイントを、新規・拡充を中心に以下で説明します。

(※)各事項の「」内が29年度概算決定額、「」内は28年度予算額

平成29年度 林野庁関係予算(総括表)

区分	平成28年度 当初予算額	平成29年度 概算決定額(A)	平成28年12月 (28年度2次補正追加額)	
			補正額(B)	A+B
公共事業費	1,900	1,900	663	2,563
一般公共事業費	1,800	1,800	410	2,210
治山事業費	597	597	100	697
森林整備事業費	1,203	1,203	310	1,513
災害復旧等事業費	100	100	253	353
非公共事業費	1,033	1,055	360	1,415
合計	2,933	2,956	1,022	3,978

- (注) 1 上記のほか、農山漁村地域整備交付金及び農山漁村振興交付金に、林野関係事業を措置している。  
 2 ( ) 内の数字は対前年度比。  
 3 計数は、四捨五入のため合計とは一致しない場合がある。  
 4 このほか、28年度3次補正予算において、災害復旧等事業に95億円を措置している。

## 1. 次世代林業基盤づくり交付金 [70億円(61億円)]

木造公共建築物の整備等により需要拡大を図るとともに、木材加工・流通施設、苗木生産施設の整備や間伐・路網整備を行います。このうち、木材加工・流通施設の整備については、28年度補正予算の合板・製材生産性強化対策で330億円(前年度補正290億円)を措置しており、事業要望の多くは既に対応しています。

また、新たに措置した林業成長産業化地域創出モデル事業(10億円)では、林業の成長産業化を目に見える形で実現する取組を全国で10箇所程度選定します。ハード面で支援するほか、ICTを活用した川上と川下の伐採情報の共有、地域材のブランド化・製品化などの取組に対して、ソフト面で自由度の高い支援を行います。高い目標を設定し、それを実現する明確なビジョンを持つ市町村を、今後公募により選定していきます。

## 2. 施業集約化の加速化 [9億円(6億円)]

森林整備地域活動支援交付金について、施業集約化に必要な合意形成活動、森林所有者の特定に加え、森林境界の測量等を新たに支援メニューに追加します。また、先般の森林法改正により市町村が整備することとされた林地台帳について、効率的に管理・活用するための森林GIS等のシステム整備、都道府県が作成する森林簿との共有管理システムの導入等を支援します。

## 3. 森林・林業人材育成対策 [60億円(59億円)]

「緑の雇用」事業について、多くの研修生(従業員)が支援の対象となるよう、増額をしたほか、運用改善を図ることにより、人材の育成を支援します。また、林業へ就業前の青年に対しても、緑の青年就業準備給付金を給付して、引き続き支援していきます。

## 4. 新たな木材需要創出総合プロジェクト [12億円(14億円)]

中高層建築等に活用できるC-LTの利用促進を図るほか、地域材の利用拡大や、地域材の安定供給のための取組を、引き続き支援します。また、平成28年度補正予算のC-LT利用促進総合対策(10億円ほか)も活用し、総合的に木材需要の拡大を図ります。

# 林業の成長産業化・森林吸収源対策の推進

## 地球温暖化防止に向けた森林整備と多面的機能発揮のための対策

- 間伐や路網整備、主伐後の再造林等を推進  
【森林整備事業1,203億円】(28補正:310億円)
- 荒廃山地の復旧・予防対策、津波に強い海岸防災林の保全等を推進  
【治山事業597億円】(28補正:100億円)
- 地域の活動組織による森林の保全管理等の取組を市町村等の協力を得て支援  
【森林・山村多面的機能発揮対策17億円】
- 国有林を観光資源として活用するため、修景伐採、木道整備等を実施  
【森林景観を活かした観光資源の創出事業1億円】
- シカの広域かつ緊急的な捕獲、防除等を実施  
【シカによる森林被害緊急対策事業2億円】(28補正:1億円)



## 林業を支える担い手の確保・育成

- 「緑の雇用」事業等による人材の育成を支援  
【森林・林業人材育成対策60億円】



## 施業集約化の加速化

- 森林所有者・境界の明確化等の取組を支援
- 改正森林法により創設される林地台帳の整備にも資する森林GIS等のシステム整備を支援  
【施業集約化の加速化9億円】

## 川上から川下までの取組の総合的支援

- 【日本再興戦略2016】を踏まえ、CLT等を活用した木造公共建築物等の整備等に加え、木材加工流通施設等を整備するほか、間伐・路網整備を行い、川上から川下までの取組を総合的に推進
- 収益性の高い経営を実現する「林業成長産業化地域」をモデル的に選定し、地域が提案する明確なビジョンの下での取組を重点的に推進

【次世代林業基盤づくり交付金70億円  
うち林業成長産業化地域創出モデル事業10億円】  
(28補正【合板・製材生産性強化対策】:330億円)



## 新たな木材需要の創出

- 【日本再興戦略2016】を踏まえ、中高層建築等に活用できるCLTの利用促進
- 木質バイオマスの利用拡大
- クリーンウッド法の施行も踏まえた違法伐採対策の推進  
【新たな木材需要創出総合プロジェクト12億円】(28補正【CLT利用促進総合対策】:10億円)



CLTを活用した先駆的建築の支援  
木質バイオマスの技術開発等の支援  
違法伐採関連情報の提供

## 川上から川下までの連携による効率的な木材の生産・供給システムの構築



## 花粉発生源対策の推進

- 花粉の少ない品種等を対象とした採種圃等の造成・改良、花粉症対策苗木への植替え、花粉飛散防止剤の実証試験等を支援  
【花粉発生源対策5億円】

### 5. 花粉発生源対策 (5億円(4億円))

花粉発生源に係る対策として、コンテナ苗生産施設等の整備への支援を拡充するほか、新たに花粉飛散防止剤の実証試験等を支援します。

### 6. 森林・山村の多面的機能の発揮対策 (17億円(25億円))

地方自治体の関与も得て、里山林での地域住民の活動を支援する観点から、①長期間手入れされていない里山林での活動、②地方公共団体による支援(国・地方の割合は原則3:1)のある活動を優先的に採択する等の見直しを図り、必要な事業量を確保していきます。

### 7. シカによる森林被害緊急対策事業 (2億円(2億円))

シカ被害対策の一層の強化を図るため、改正森林法に基づく鳥獣害防止森林区域等における広域かつ緊急的な捕獲のモデル的実施等を行います。

### 8. 森林景観を活かした観光資源の創出事業 (1億円(1億円))

国有林の「レクリエーションの森」のうち、観光資源としてのポテンシャルや地元の実行体制などを考慮してモデル箇所を100箇所程度を選定し、多言語による情報発信や、修景伐採や施設整備等の環境整備を3年間で重点的に実施します。

併せて、農山漁村振興交付金に新設された「農泊推進関連の対策(50億円)」を活用し、森林体験プログラムの提供など観光需要拡大のための地元の取組をソフト・ハード面で支援します。

### 9. 森林整備事業(公共) (1,203億円(1,203億円))

国産材の安定供給体制を構築するとともに地球温暖化を防止するため、間伐や路網整備、主伐後の再造林等を推進します。0.27億円の増加を確保したほか、平成28年度補正予算の310億円も併せて、森林整備事業の一層の推進を図ります。

### 10. 治山事業(公共) (597億円(597億円))

地震集中豪雨等に対する山地防災力の強化のため、荒廃山地の復旧・予防対策、津波に強い海岸防災林の保全等を推進します。0.13億円の増加を確保したほか、平成28年度補正予算の100億円も併せて、治山事業の一層の推進を図ります。

# 平成29年度林野庁税制改正事項

平成29年度の税制改正については、昨年12月8日に与党の「平成29年度税制改正大綱」が決定され、同月22日に政府の「平成29年度税制改正の大綱」が閣議決定されました。

政府の大綱に盛り込まれた林野庁関係税制の主な改正事項は次のとおりです。

## 新規・拡充事項

- 山林に係る相続税の納税猶予制度について、次の見直しを行う。**【相続税】**
  - ① 森林経営計画に定められている区域に存する山林のうち同一の小流域内に存するものの面積が5ha未満である一定の山林を、納税猶予の適用対象に加える。
  - ② 猶予期間中に身体障害等のやむを得ない事情により林業経営の継続が困難となったときは、一定の推定相続人に林業経営の全てを委託した場合であっても、納税猶予の継続を認める。
  - ③ 災害による森林被害のため経営の規模の拡大を行うことが困難である場合には、当初認定起算日等から15年(現行:10年)を経過する日までに経営の規模の拡大が完了していれば、納税猶予の取消事由に該当しないこととする。
- 相続税等の財産評価の適正化のため、実態を踏まえて、杉及びびのきについて、現行評価額を全体的に引き下げるとともに、松について、原則として、標準価額を定めず個別に評価する見直しを行う。**【相続税】**
- 森林法等の一部を改正する法律の施行に伴い、次の措置を講ずる。**【複数税目】**
  - ① 森林経営計画の認定基準見直しに伴う措置
  - ② 国立研究開発法人森林総合研究所の名称変更等に伴う措置
- 中小企業者等が機械等を取得した場合の特別償却(30%)又は税額控除(7%) [中小企業投資促進税制]について、上乗せ措置(生産性向上設備等に係る即時償却等)は中小企業経営強化税制として改組し、全ての器具備品及び建物附属設備を対象とするとともに、その他は対象資産から器具備品を除外した上で、その適用期限を2年延長する。**【所得税・法人税】**
- 森林組合等の上部団体への出資に係る受取配当等の益金不算入制度の見直し(森林組合等の各事業年度において、その保有する連合会等の普通出資につき支払を受ける配当等の額がある場合には、その配当等の額のうち益金の額に算入しない金額は、その出資保有割合にかかわらず、その配当等の額の100分の50相当額とする措置を講ずること)を行う。**【法人税】**

## 延長事項

- 農林漁業用軽油に係る石油石炭税(地球温暖化対策のための課税の特例による上乗せ分)の還付措置の適用期限を3年延長する。**【石油石炭税】**
- 特定中小企業者等が経営改善設備を取得した場合の特別償却(30%)又は税額控除(7%) [商業・サービス業・農林水産業活性化税制]の適用期限を2年延長する。**【所得税・法人税】**
- 森林組合等の貸倒引当金の特例について、割増率を10%(現行:12%)に引き下げた上、その適用期限を2年延長する。**【法人税】**
- 中小企業者等に係る法人税の軽減税率の特例(森林組合等について所得の金額のうち年800万円以下の部分に対する税率を19%→15%とする措置)の適用期限を2年延長する。**【法人税】**
- (独)農林漁業信用基金が受ける抵当権の設定登記等に対する登録免許税の税率の軽減措置(0.4%→0.15%)の適用期限を2年延長する。**【登録免許税】**

# 森林吸収源対策の財源確保について

林野庁は、森林整備等の森林吸収源対策に必要な安定財源を確保するため、森林環境税(仮称)の創設に向けた税制改正要望を行っているところです。

昨年12月8日に決定した「平成29年度与党税制改正大綱」において、市町村が主体となった森林整備等の財源に充てるための森林環境税(仮称)の創設に向けて、具体的な仕組み等について総合的に検討し、平成30年度税制改正において結論を得ることとされました。

今後は森林環境税(仮称)の創設に向けて、地方自治体等の意見を踏まえながら具体的な仕組みの検討を進めていきます。

〈平成29年度税制改正大綱(抜粋) (自由民主党・公明党 平成28年12月8日)〉

## 第一 平成29年度税制改正の基本的な考え方

### 6 森林吸収源対策

2020年度及び2020年以降の温室効果ガス削減目標の達成に向けて、森林吸収源対策及び地方の地球温暖化対策に関する安定的な財源の確保について、以下の措置を講ずる。

- (1) エネルギー起源CO<sub>2</sub>の排出抑制のための木質バイオマスのエネルギー利用や木材のマテリアル利用を普及していくことは、森林吸収源対策の推進にも寄与することから、地球温暖化対策のための税について、その本格的な普及に向けたモデル事業や技術開発、調査への活用の充実を図るため、経済産業省、環境省、林野庁の3省庁は、引き続き連携して取り組む。
- (2) 森林整備や木材利用を推進することは、地球温暖化防止のみならず、国土の保全や地方創生、快適な生活環境の創出などにつながり、その効果は広く国民一人一人が恩恵を受けるものである。しかしながら、森林現場には、森林所有者の特定困難や境界の不明、担い手の不足といった、林業・山村の疲弊により長年にわたり積み重ねられてきた根本的な課題がある。その対策に当たっては、森林現場に近く所有者に最も身近な存在である市町村の果たす役割が重要となる。

このため、市町村による林地台帳の整備を着実に進めるとともに、公益的機能の発揮が求められながらも、自然的・社会的条件が不利であることにより所有者等による自発的な間伐等が見込めない森林の整備等に関する市町村の役割を明確にしつつ、地方公共団体の意見も踏まえながら、必要な森林関連法令の見直しを行うこととし、以下のような施策の具体化を進める。

- ① 市町村から所有者に対する間伐への取組要請などの働きかけの強化
- ② 所有者の権利行使の制限等の一定の要件の下で、所有者負担を軽減した形で市町村自らが間伐等を実施
- ③ 要間伐森林制度を拡充し、所有者が不明の場合等においても市町村が間伐を代行
- ④ 寄附の受入れによる公的な管理の強化
- ⑤ 地域における民間の林業技術者の活用等による市町村の体制支援

このような施策を講じることにより市町村が主体となって実施する森林整備等に必要な財源に充てるため、個人住民税均等割の枠組みの活用を含め都市・地方を通じて国民に等しく負担を求めることを基本とする森林環境税(仮称)の創設に向けて、地方公共団体の意見も踏まえながら、具体的な仕組み等について総合的に検討し、平成30年度税制改正において結論を得る。

# みどりの女神が行く!



国際森林デー記念植樹(3月)



各地で子どもたちともふれあいました



安倍総理大臣への緑の羽根付け(4月)



飯塚 帆南(いつかほなみ)  
平成5年7月26日、群馬県生まれ。2016年ミス日本みどりの女神として活躍中!

## みどりの女神としての一年を振り返って

こんにちは!

この一年、みどりと木への親しみを広めるため、全国各地の行事に参加し、森林・林業・木材産業のPRを行なってきました。

印象深かったのは、総理官邸を訪問し、安倍内閣総理大臣にみどりの羽根を着用いただいた時です。緑を大切に思う思いや今後の取組について話すことができた貴重な経験でした。

10月の林業機械展では、林業機械の特別教育を修了した成果をお披露目する機会をいただきました。また、チエーンソーの競技会(鳥取県)にも出場しました。防護衣に身をつつんだ皆さんは本当にカッコ良かったです。現場に足を運ぶ事で、林業の魅力や安全確保の大切さを実感できました。

「全国植樹祭」「全国育樹祭」では、皇族の方々によるお手植えやお手入れ、林業の若い後継者たちの林業に対する熱い想いがこもった誓いの言葉などに感動しました。

そのほかにも、一日森林管理署長、植樹活動、イベントでの発表や司会、トークショー、講演など1つ1つの活動にたくさんのお思い出と感謝の気持ちがあります。

振り返りますと、みどりの女神になって、林業現場で多くの方々にお目にかかり、たくさんのお経験を積ませていただいたことで、私は大樹が根や枝を広げるように大きく成長させていただきました。ことができました。

私は4月から社会人となります。みどりの女神で培った知識と経験を活かし、日本がより木の温もりに溢れ、「木の文化」を感じられ、森林の魅力にふれられる、森や木が身近な国となるよう、今後も活動していきたいと思えます。

仕事でどれだけ忙しくなっても、みどりに感謝の気持ち「ありがとう」の気持ちを忘れない社会人でありたいと思います。

さらに、今後もみどりの女神が



群馬森林管理署での1日署長(6月)

代々、様々な分野に旅立つことで、森林や林業への関心と木の文化への親しみが社会の隅々まで広がっていくことを願っております。

最後に、みどりの女神の活動が終わってしまうことは、言葉で言い表せないくらい寂しいですが、それと同時に、いままでの活動で得た達成感と、多くの皆様への感謝の気持ちで胸がいっぱいです。本当にありがとうございます。ありがとうございました。

これまで温かく見守り、支え、育てて下さった多くの皆様のおかげで、任期を全うすることができました。本当に1年間ありがとうございました。そして3代目のみどりの女神も温かく見守って頂ければ幸いです。



高性能林業機械の操作を披露(10月)



「緑の雇用」のポスターに登場

## 2017年ミス日本コンテスト最終候補者 林野庁を表敬訪問



平成28年12月2日、ミス日本コンテスト最終候補者が、林野庁を表敬訪問しました。最終候補者の中から、本年1月23日に開催される「第49回ミス日本コンテスト2017」において「ミス日本みどりの女神」が決定します。

特集2

# ウッドデザイン賞 2016

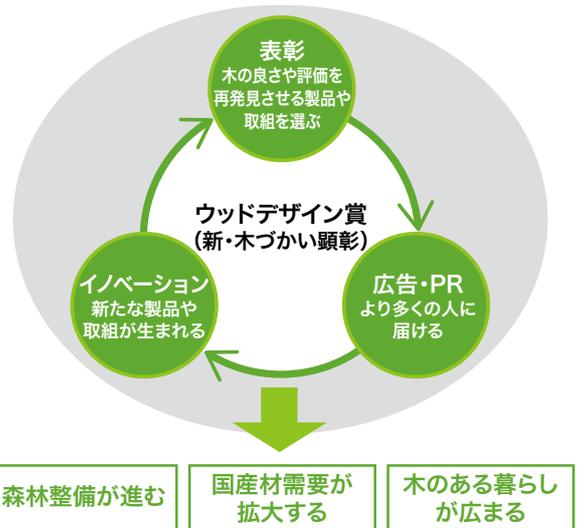
# JAPAN WOOD DESIGN AWARD 2016



「ウッドデザイン賞」は、木のある豊かな暮らしが普及、発展し、日々の生活や社会が彩られ、木材利用が進むことを目的として、「木」に関するあらゆるモノ・コトを対象に、優れた製品・取組等を表彰する制度です。

同賞は、木を使って暮らしを豊かにする「ライフスタイルデザイン部門」、人を健やかにする「ハートフルデザイン部門」、社会を豊かにする「ソーシャルデザイン部門」の3つの部門からなります。

## ■ウッドデザイン賞の目指すもの



また、同日開催されたシンポジウムでは、登壇者から「日本人は古来より全てを森林資源に頼って来た。国産の木を使う、新たな素材造りが大切」（プロダクトデザイナー 益田文和氏）、「木を使うことは、コストや法整備の問題があり難しい面もあるが、もっとあたりまえに木が使われ、街が住み易くなってほしい」（建築家 手塚由比氏）

今年度も力作が揃い、赤池審査委員長は、表彰式の総評の中で、「作品のレベルが昨年より向上しており、自動車や病院内の木質化など、木の新しい利用の形を開く様々な技術が受賞している。受賞作品を通じて木に囲まれた新しい住生活を感じて欲しい」と語っていました。

第2回となる今年度は、451点の応募があり、書類による1次審査、プロジェクトデザイナーの赤池学氏や建築家の隈研吾氏などの審査委員による2次審査を経て、251点が「ウッドデザイン賞」を受賞しました。さらに、この中から「農林水産大臣賞（最優秀賞）」1点、「林野庁長官賞（優秀賞）」各部門3点ずつ、「審査委員長賞（奨励賞）」各部門5点ずつ、計25点の上位賞が選ばれました。これらの上位賞は、昨年12月8日に発表が行われ、東京ビックサイトで行われた「エコプロ2016」で表彰式が行われました。

「木材の利用を訴える手法として、『かわい』とか『かっこいい』など、まずは直感・感情で訴えることを積極的に行った方が良い」（東北芸術工科大学教授 山崎亮氏）、「客観的なデータの裏付けも大切であり、一定程度のエビデンスが必要」（慶応義塾大学教授 伊賀賀俊治氏）などのコメントが述べられ、次回のウッドデザイン賞への期待も表明されました。



赤池学審査委員長



シンポジウム登壇者



ソーシャルデザイン部門(技術・研究分野)  
 コンセプトカー SETSUNA (愛知)  
 トヨタ自動車(株)



本年度の農林水産大臣賞(最優秀賞)は、ソーシャルデザイン部門(技術・研究分野)の「コンセプトカー SETSUNA」(トヨタ自動車(株))が、受賞しました。「SETSUNA」は、「家族と共に時を刻むクルマ」をコンセプトに、ぬくもりがあり、時間と環境により変化する「木材」を使うことで、人々と共に歳月を経て変わっていくことを愛でる、という人とクルマの新たなつながりを表現する、全長約3メートルの木製の2人乗り電動自動車です。住友林業(株)をはじめとする森林・林業・木材産業界の各社との協働で開発された「SETSUNA」は、駆動部分を除き、ボディにはスギ、ハンドルにはヒノキ、フレームにはカバなど、用途に応じた木材がふんだんに用いられ、釘やネジを使わない日本の伝統技法「送り蟻」、「くさび」などを採用しています。

「SETSUNA」は、自動車づくりの専門性と木材利用の専門性が協働したプロジェクトで、これまで木材利用とは縁がなかった業種・業態に木材利用を波及させる模範例となり得ることが、受賞理由となりました。

## ライフスタイルデザイン部門

### Jパネル 協同組合レングス

(建材・部材分野)



国産材のスギ・ヒノキを100%原料とした直交集成板。薄型CLTの先駆的モデル。

### 耐震補強技術 T-FoRest 株竹中工務店

(技術・研究分野)



CLT、集成材、LVL等の高強度性や加工性、軽量可搬性を活かし、RC造等の大規模建築物の耐震補強を行う木質系耐震補強システム。

### Roll Press wood 株天童木工

(技術・研究分野)



独自技術で強度を高めたスギなどの針葉樹の単板を使用し、自由な曲線を持つ丈夫な部材を作る、世界初の技術。

## ハートフルデザイン部門

### 日本橋とやま館 「富山らしさを表現する木づかい」 株乃村工藝社

(建築・空間分野)



産地に眠っていた原木、製材品、加工品など様々な工程段階の木材を現地で選定、調達しデザインした富山県のアンテナショップ。

### 新柏クリニック 医療法人社団中郷会 新柏クリニック

(建築・空間分野)



木の癒やし効果に着目し、国産材木材の利用にこだわり、新しい防火技術の導入により都市部において木造・木質化された医療施設。

### 産学官連携 「病院木質化プロジェクト」 株ハルキ

(技術・研究分野)



産学官が連携して、地域材を利用した病院空間用のウッドインフィル「病院ユニット」を開発・試作したプロジェクト。

## ソーシャルデザイン部門

### 堀切の家 桜設計集団一級設計士事務所

(建築・空間分野)



木材をあらわしにしながらも、地震や火事に負けない設計上の配慮を随所に施し、木造密集市街地(準防火地域)に建つ木造2階建て住宅。

### 平成28年熊本地震における 木造応急仮設住宅の供給 木と住まいの研究協会

(建築・空間分野)



被災された方々が安らぎある生活を早く送れるよう、熊本県産の木材を多用した応急仮設住宅を企画した取組。

### 大工と組む 我が家再生 株親和設計

(コミュニケーション分野)



作り手技術集団が住まい手をエスコートする安心のわが家再生を実現する活動。

他の受賞作品も含め詳細については、ウッドデザイン賞運営事務局のホームページをご参照ください。

<https://www.wooddesign.jp/>

## 受賞作品 の展示

「ウッドデザイン賞」では、世の中に受賞作品を広く広報し、木材利用の意義を広く国民の皆さまに伝えるため、全国各地で行われる展示会等において、受賞作品の巡回展示を行っています。

### エコプロ 2016

12月8日（木）から12月10日（土）まで、「エコプロ2016」の会場内の特設コーナーにて、受賞作品が紹介されました。期間中、多くの来場者が訪れ、作品に熱心に見入ったり、写真やメモをとったり、実際に展示作品を手にとり肌ざわりを確かめるなど、関心を集めていました。



「ウッドデザイン賞2016」展示会の様子

### 2月～3月のウッドデザイン賞巡回展示スケジュール（予定）

#### 木と住まいの大博覧会

【期間】 2月3日（金）～2月5日（日）

【場所】 東京ビックサイト 西展示場

【内容】 展示・セミナー（2月4日）

【URL】 <http://www.nicefair.com/wood/>

#### ファッションとデザインの合同展示会「ROOMS」

【期間】 2月15日（水）～2月17日（金）

【場所】 国立代々木競技場第一体育館

【内容】 展示

【URL】 <http://www.roomsroom.com/>

#### ジャパン建材フェア

【期間】 3月17日（金）～3月18日（土）

【場所】 東京ビックサイト 東展示場

【内容】 展示

【URL】 <https://www.jkenzai.co.jp/jkfair/next/>

#### お問い合わせ先

#### ウッドデザイン賞運営事務局

TEL：03-5777-3128

FAX：03-6740-8333

メール：info2016@wooddesign.jp

URL：https://www.wooddesign.jp/

※受賞作品の内容や審査委員のコメント、展示会の様子などウッドデザイン賞についての各種情報は、運営事務局のFacebookでも配信されています。

URL：<https://www.facebook.com/wooddesignaward/>



YAMAMORI PROJECT代表  
井上 貴詞さん 須藤 修さん

今回は山形県の里山を舞台に、ツアーの企画やプロダクト開発などを行う「YAMAMORI PROJECT」代表の須藤修さんと井上貴詞さんにお話を伺いました。



山には宝がいっぱい



# 山形の里山は、感動がいっぱい Link・Cycle・Surviveを キーワードに山を守り続ける

## 雪

がうつすらと積もる寒さ厳しい12月の山形県南陽市を訪れると、YAMAMORI PROJECTの代表 須藤修さんと井上貴詞さんが温かく迎えてくれた。

YAMAMORI PROJECT

は、家具デザイナーの須藤さんと一級建築士の井上さんが、山形県の里山を舞台に山やものづくりを体験するツアー「TRAVEL」、県産材を使った製品を開発・販売する「GOODS」、県内の森林に関わる人々を紹介する「MEETING」の3つの活動を目的に2012年に立ち上げたプロジェクト。

「現在、林業家、製材業、加工業、消費者の接点は少なく、それぞれが必要としていることや実現できる可能性などを把握できていません。そのため、実際は需要がある部分も最初から諦めているので森林資源が循環せず、森林環境の悪化にもつながっています。そんな森林と人をつなぎ、循環することで山や森を生き残らせたいとスタートしたのが、このプロジェクトです」と須藤さん。

そんな須藤さんに誘われてメンバーに加わった井上さんは、「山形県35市町村ごとに積み重ねてきた歴史が異なり、

毎回新しい発見ばかり。自分自身が、日々山の奥深さに感動しています。また、ツアーには各地から参加者が集まり、人と人、人と山、人と地域がつながる瞬間に立ち会うことができることも楽しいですね」と話す。

## —実際に活動してみたいかがですか？

「ツアーは地元の方から山の歴史や文化を聞き、実際に山で植生などに触れ、土地の食を味わい、県産材を使った木工ワークショップを一日で体験します。イベント前には私たち二人でその土地を訪れ、山の背景を学ぶことから始まります。ツアーの特長は、私たちが感じた面白さを参加者が追体験できること。そうして出会った林業や製材業、木工業などに携わる方をフォークラスし、ウェブ上で情報発信していくのがMEETINGです。毎回、初めての方がほとんどで、地元の方の協力なしでは私たちの活動は成り立ちません。今では、地元の方も参加者との関わりをヒントに町おこしのきっかけにするなど、町ぐるみでの大きなプロジェクトに発展することもあります」(須藤さん)



ツアーが終わるころにはみんな仲良しに



TRAVELではガイドさんと山歩き。  
新しい発見がそこら中に転がっている



地元の方を講師にその土地の歴史や文化を聞く



山の恵みを食すのもツアーの醍醐味



## 木工ワークショップ



取材中、何度も「一方通行ではない活動を」という言葉を聞いた。これは、YAMAMORI PROJECTが単に山を紹介するだけでなく、提供される側が自ら体験し、一緒に考えることを大事にしているということ。それがよくわかる活動の一つに、ツアーの最後に組み込まれている木工ワークショップがある。ツアー開催地の木やものづくり技術を使って実施される木工体験は、その土地の文化を知り、山とふれあった参加者にとって、さらに山や森を深く知る体験となる。また、県内のものづくり技術を生かし、県産材を加工して販売するGOODSでも、商品を実生活で自由に使用し、SNSでその使い方の紹介や感想を投稿する体験モニターを募集している。こうして五感で感じることが、本当の意味で山を知る第一歩になるのだろう。



YAMAMORI  
GOODS

「ツアーには県内の山に詳しい森林ガイドさんと同行していただいています。ガイドさんと一緒に山を歩くことで、魅力的な部分だけでなく、怖さも含めて自分だけでは見えなかったことが見えてくる。そうすると、参加者もある意味、プチガイドとして他の人に教えられるようになります。こうして山を知っていただき、ツアー後もその山を目的に訪れる人が増えることを期待しています」（井上さん）

— YAMAMORI PROJECTの  
目指す姿とは？

「この活動を一過性で終わらせたくありません。山や森を知る学びの機会を継続し、その結果、私たちのプロジェクトが日常の楽しみの一つになってほしい。また、地元にも町の魅力を掘り起

こす一つの手段として捉えていただき、地域づくりに結びつきかけに発展していければ嬉しいです」（井上さん）

「二人の活動だけで森全体を変えることは不可能です。ですから、私たちがすべきことは山に対する敷居を下げ、森林活動を始めるきっかけをつくること。今後は、TRAVELの振り返りやMEETINGの内容をまとめた小さな冊子をつくることで多くの方にこのプロジェクトを知っていただき、山に興味を持つきっかけにするなど、地道な活動を続けていきます」（須藤さん）

「山は宝箱なんです」と須藤さんと井上さんは笑う。これからも同プロジェクトは、自然が生み出したかけがえない「宝」を守り続けるため、多くの人にその価値を伝え続けていく。



# 集まれ！ 森林男子。 森林女子。

林業を仕事にしたい、すべての若者へ。

「緑の雇用」現場技能者育成推進事業（林野庁補助事業）

## 森林の仕事ガイダンス2017

森林の仕事ガイダンスは、林業に関心を持つ方のための説明・相談会です。仕事内容のご紹介から、現場の声が聞けるトークショー、就業相談ブースなどをご用意しています。林業に少しでも興味のある方のご来場を、心よりお待ちしております。

- 申込不要
- 服装自由
- 履歴書不要
- 入退場自由
- 入場無料

※「森林の仕事ガイダンス2017」は、就業斡旋のためのガイダンスではありません。

大阪 1月28日(土) 大阪マーチャンダイズ・マート 2階Aホール

東京 2月4日(土) 東京国際フォーラム B7ホール

名古屋 2月11日(土) 名古屋国際センター 別棟ホール

開催時間 13:00～17:00 (最終入場 16:30)

詳しい情報はここから！



リサイクル適性(A)  
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

「林野」は林野庁 HP でもご覧になれます。詳しくは

情報誌 林野

検索